

学校におけるダンスの研究

—— ダンスの創作過程について (1) ——

あな さこ よう こ
穴 迫 洋 子

（体育学研究室）

（昭和43年7月30日受付）

I 緒 論

ダンスを踊るものの目的の違いから分類してみると、第一には踊り方は簡単であるが、律動的な運動をみんなと一緒に楽しむことが中心であり、レクリエーションとして重要な役割を果たしているフォークダンス、民踊などがある。第二に伝統にささえられた芸術としての古典バレエや日本舞踊などのように、芸術家が創作した台本ともいえるべき踊り方がある。第三に自己の感情や思想を表現するために創作して踊るダンスがある。学校におけるダンスの内容としては、太平洋戦争前は、フォークダンスと既成作品が生徒に与えられ、一定の型の受容と技術の習得が主であって、第二の演技的な性格が強調されていたが、戦後昭和22年に文部省より示された学校体育指導要綱を転機として、フォークダンスと共に、第三の創作して自己を表現するダンスが体育にとり入れられた。即ち、ダンスが既成作品を踊るという受動的な立場から、自ら創り出すという能動的な場へ転換し、自己の身体を素材として感情や思想を表現する活動となつて、律動的な身体運動であると同時に、知的・情緒的活動をうながし、より積極的に創造性を育成する場となったのである。このような転換は体育自体が、全人教育としての身体活動という新しい概念規定を明らかにし、従来の統制的な教授中心の授業形態から脱して、児童・生徒の主体的な活動のうちに、創造性を豊かにする指導を重視するようになった為である。

創造には幼児の前創造的な活動から天才の創造に至るまでのものがあつて、同じ基準にはあてはまらない。ここでいう創造は個人的創造（絶対的創造）をさしているのであつて、社会的にとくに新しいものではなく、本人にとって新しいということである。純粋の創造はその個人にとどまらず社会全体としても新しく、ある一定の水準以上のもので価値あるものの創造で社会的創造（相対的創造）である。しかし社会的創造が価値高いものとしても、個人的創造の基盤の上にあるものであつて、教育の場における創造は自己実現の創造性¹⁾の育成が課題である。ではダンスを創作する能力とは何か。あるいはダンス創作を体験することによって育成し得る創造性とはどのようなものか、ということが明らかでなくてはならない。しかし、転換が急激であつた為に多くの問題を残して今日に至っている。そこでこれらを明らかにするためにダンスの創作過程を分析することによって手がかりを得たいと考えた。

これまでの創造に関する研究は、科学者や芸術家等のいわば特殊な才能の人々を対象に、その創造過程や所産や才能・性格についてのものが多く、身体活動という場面での創造を問題にしたものはほとんど見出すことができない。戦後、日本体育学会においてダンスに関する研究発表が行なわれるようになり、体育心理専門分科会において昭和39年²⁾ダンスの創造過程に関するシンポジウムが開かれたが、いまだ解明には至っていない。ワラス (G. WALLAS)³⁾は数学者ポアンカレの体験から創造の過程を①準備期、②あたため期、③啓示期、④検証期の四つの段階で説明している。また、亀山貞登氏⁴⁾は集団思考の立場から①問題を提出する、②すみやかにできるだけ多くの資料を集める、③個人的で断片的なアイディアを社会的で構造的なものにまとめる、④計画的に集団決定を行なうなどの段階を示しているがダンス創作の過程もこのように段階で区分することができるのではないだろうか。松本千代栄氏⁵⁾は児童の個人の場合のダンスの創作過程を分析し四つの段階を述べている。①仮定期、②探索期、③強化期、④完成期である。個人の創作過程を観察するときにかかる問題点は、外側から見える行動はとらえられても、心理的变化や思考の流れについては、その後に本人に質問して、本人が自覚し得る範囲の内省をきくか、または行動から類推するかの方法で解明するしかない。只今現在の形で創作者が考えていることをとらえることができないものであろうか。この問題を解決するために、自分の考えていることをどうしても説明しなければならない集団による創作場面での行動を分析することによって、個人のこともある程度理解できるのではないかと思いついた。ダンスは個人の表現もあるが集団の力によらねばならない表現もあって、集団による創作は社会性の育成とともに初歩的な指導場面で必要なこととされている。そこで私は、集団によるダンス創作過程を分析することによって、創作に必要な能力や創作していく段階を明らかにし、学校におけるダンスの構造解明のための資料としたいと考えた。しかし、集団成員の相互作用によって創作過程に及ぼす影響は無視できないので、この問題については次の課題として研究を継続していくこととする。

II 問題の設定

研究をすすめていくにあたっての根本的な考え方として次のような仮定の上にたって研究をすることとした。

1. ダンスの創作過程は科学技術的な創造過程とは基本的には同じような思考過程をもつものではないか。
2. 創造活動において個人のたどる過程は、グループのたどる過程を知ることによってある程度理解できるのではないか。
3. ダンスの創作過程を具体的に記述することによって、その心的過程の分析ができ、創造性を明らかにする手がかりを得ることができるであろう。また、ダンスの構造も明らかにできて、指導法の検討に役に立つものであろう。

この三つの考え方は、研究を始めた1964年当時からのものであるが、後日、W. J. J. ゴードン (William J. J. GORDON)⁶⁾のシネクティスの研究の根本的な考え方とはほとんど一致するものであることを知った。ここでは次の二つの問題を設定し集団がどのような過程でダンスを創作するかを明らかにしていきたい。

問題 ①集団によるダンスの創作過程はどのように区分することができるか。

問題 ②年齢差や経験差はダンスの創作過程にどのようにあらわれるか。

III 研究の方法

- 1 期 間 昭和39年7月 昭和40年3月（高等学校のみ）
- 2 対 象 大阪市立萩之茶屋小学校 4年生 男3名 女3名
6年生 男3名 女3名
大阪市立難波中学校 2年生 女6名
八尾市立清友高等学校 1年生 女3名
2年生 女3名
ダンスクラブ 6名
大阪女子大学 学生 6名
- 3 場 所 各学校教室
- 4 方 法 行動観察法（ことば，行動）
- 5 観察場面 各学年男女別に3人グループをつくり題を与えて，舞踊表現を行なわせる
- 6 観察時間 15分間 20分間（高等学校のみ）
- 7 教 示 「3人グループで光という題でダンス（リズム表現）をつくって下さい。時間は15（20）分間です。出来上ったらみせて下さい。」
- 8 観 察 者 4名（一人の行動を一人が記録する。一名は全体観察）
- 9 計 時 係 1名（1分毎に時間をしらせる）
- 10 用 具 テープレコーダー 撮影機 記録用紙

課題「光」の設定理由 予備調査の結果光という課題はそれぞれの年令に応じた内容としてとらえやすいものだと考えたので採用した。

調査時間を15分とした理由 予備調査（4年）では10分間で表現が出来たが上級では、もっと必要だと思ったので15分にした。ただし練習（発表のための）にはもっと必要と思ったがこの場合準備期に焦点をあわせたので15分で準備期についての資料は得られると思った。また、15分のうちで十分な時間ではないが段階の概要については得ることが出来るのではないかと考えた。高校生には生徒の要求によって20分とした。

3人にした理由 予備調査の結果、2人ではことば数が少くなる傾向がみられたが、3人の場合は他の2人と一緒に創作するために自己のイメージを説明することが多かったからである。共同作業なので仲良しグループで、しかも自分をよく説明することが必要なので小学生では成績上位のものをえらんだ。

IV 資料の整理

1 ことば（行動を伴う）を1分間毎に下記の5つの項目によって整理し，ことばの内容は，表現内容の全体（○）についてのものか，部分（●）についてのものかを区別した。ここではことばの内容をとらえてその量については考慮していない。

- ・表現したいもの……表現したい光についてのことば（例，自然の光，光があれば救われる，電光）
- ・表現したいもの＋表現方法……表現のし方や動きなどを伴ったことば（例，ろうそくの光はまるくなってゆらゆらゆれよう，公園の光は一人一人離れて立って）

- ・表現方法……………表現のし方で主として技術的なもの
- ・構 成……………形式、順序、経過、構成などについてのことば
- ・表現の客観性……………表現の妥当性や客観性を意識することば（例、これで光というのがわかるかしら、それは変だ）

2 表現内容の種類毎に a, b ……の記号をつけて1分毎に整理した。

本資料は「学校におけるダンスの研究(6)―舞踊表現の過程―」および「学校におけるダンスの研究(7)―舞踊表現の過程に関する実験的研究―」として日本体育学会に発表したものを1つにまとめたものである。⁷⁾

V 結 果 と 考 察

1. ダンスによる表現の過程を、表現内容の発展のし方の事例から、どのような傾向があるかを明らかにしようとした。

各グループは「光」という課題について、1) 光とは何か、2) 光の何を表わすか、3) 光をどのようにして表わすか、について話し合いをした。そこで提案されたものに a b c ……の記号をつけて1分毎に整理した結果を次の表（第一表）に示した。ここでは提案の範囲の大小は考慮していない。小文字は提案で大文字は主題となったものである。

第一表 表現内容の提案（提案を記号にして整理したもの）

グループ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
小4女	a	④	A'	A''	A'	A														
中2A	a	b	a'	a''	a'''	b	b c	d	c'	e f	f	g	g	h	i					
高1	as' bd' c d	a' d'	a' d'	a' d'	b' ④ Bd	Ba Bd	Ba Bd*	Ba Bd e f	Be Bf	B	Bs Bd Be Bf Bg	Ba Bd Be Bf Bg	g	h	Ba Bd Be Bf Bg					
高2	a e b f c g d h	i j k b	a' k l j	m n o ④	Ajm	Ajm	Ajm	Ajm	Ajm	Ajm	Apq	Ar	As	As	As	As	As	As	As	As
高1 ダンス	a e b c d	b d	f		g	h	i	i	i	i	a	i	i	i	i	i	e j	b' b	e	e
高2 ダンス	a b c d	a g b h e f	④ b'	Ab'	Ab'	Ab'	Ab'	Ab'	Ab'	Ab'	Ab'	Ab'	Ab'	Ab'	Ab'	Ai	Ab''	A'b''	A''b	Ab''
大学A	a b c	d e e'	e f f'	f''	g g a'	g'' h i	j ④ h J e	J'	Ja	Jb	Jf	Ji	Ji	Je	Jf	Je				

④……大文字は主題、○は決定した時
a b c……提案に記号を付したもの
話し合い場面が動きをつくる場面に移行した時

(1)小学4年は男子は「くも」、女子は「超特急ひかり号」でa 1つしかなく、それに全員が賛成するとこれが主題となり、すぐ動きとして表現した。実験場の一角から対角線上を3人並んで走ると終りであった。何かに見せようという工夫よりも、課題から一義的な概念を初めにつかんで直線的にその概念の実現に向っている。

(2)中学2年は課題に対して反応が速く、表現したいものはすぐに動きとして表現された。はじめは何をしようとしているのか観察しにくかったが、終りになって光の種類を表現しているのだということが理解できた。はじめに全体の見透しをたてて表現し始めるのではなく、一つ一つ新しい材料をつないでいくのである。一定の方向に工夫がなされるが、全体構成についての考慮は少ない。

(3)高校・大学生は、課題が与えられると、話し合いのはじめにお互いのイメージ (image) が説明され多くの材料が提出される。その中の一つが主題となり、新しい提案が加えられたり、話し合われた材料が主題に組合わされたりする。

(4)提案を、1)主題が決定するまでの提案、2)踊りをつくる場面になってからの提案、3)ダンス表現に採用された提案、の3つに分けて整理してみると、高1・2年は主題が決定して動き始めても新しい材料が提案されている。このことは動きながら表現を確かめることにより、新しいアイディア (idea) がうかんできていることを示している。大学生および高校ダンスクラブ員は主題の決定後はそれらの材料の中から必要なものが選び出されて組合わせられているが、このことは全体の見透しが確実になってから主題が決定されているということがいえる。

(5)ダンス表現された内容は、小学4年では一種類であるが中学・高校は多くの内容が表現された。先行経験の豊富なダンスクラブ員および大学生では表現された内容の数は少い。主題の大きさの影響もあるが、このことは、経験の少ないものは表現方法よりも表現内容に表現の重点がある。経験の豊富なものでは表現内容は勿論大切なものとして考えられているが、それをいかに動きで表現するかということ、即ち表現方法に自己表現の重点がおかれる傾向を示した。

第二表 提案の時期とその数

項目 グループ	題が決定する までの提案	踊りをつくる 場面になって からの提案	表現に採用さ れた提案	計
小 4女	1	0	1	1
中 2A	2	7	9	9
高 1	6	4	6	10
高 2	16	4	7	20
高1 ダンス クラブ	10	0	0	10
高2・3 ダンス クラブ	8	0	3	8
大学A	12	0	5	12

第三表 A 表現過程

グループ	時間		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	表現内容
	ことば																	
小学4年男	表現したいもの		○	○	○	○	○					○						山の火事
	方法を伴った表現したいもの						●	●	●		●	●						
	表現方法									●		●						
	構成																	
	客観性											○						
小学4年女	表現したいもの		○	○														超特急ひかり号
	方法を伴った表現したいもの		●	●	●	●	●	○										
	表現方法				●													
	構成								○									
	客観性																	
小学6年男	表現したいもの		○	○	○	○	●	○	○	○				○	○	○	○	たき火を消す雪男
	方法を伴った表現したいもの			●		●	●	●		●	●			●		●	●	
	表現方法							●			●	●	●					
	構成												○				○	
	客観性								●		●		○	○				
小学6年女	表現したいもの				●	○	○	○	○		○							木と太陽
	方法を伴った表現したいもの		○	●		●		●		●	●		●	●	●			
	表現方法						○					○	●	●	●		○	
	構成															○		
	客観性						○										○	
中学2年女A	表現したいもの		○	●	○													いろいろな光
	方法を伴った表現したいもの		○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	
	表現方法				●	●	●						●	●	●	●	●	
	構成		○	●	●												●	
	客観性								●							●		
中学2年女B	表現したいもの							●	●									電燈のいろいろ
	方法を伴った表現したいもの		●	●	●	●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	
	表現方法		●			●		●	●			●	●	●	●	●	●	
	構成		●							○	○					○		
	客観性						●											

〇 「出来た」と報告があったところ
 話し合い場面が動きの場面に移行したとき
 ● 表現内容が全体的なものとして話し合う
 ● 部分的なもの

第三表 B

グループ	時間 ことば	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	表現内容
高1女	表現したいもの	○	○			○																心の明暗
	方法を伴った表現したいもの	○	○	○	○	○	○	●	○	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	●	
	表現方法		○	○	○	○	○	○	○	●		●	●	●	●	●		●	●	●	●	
	構成					○				○		●				●		●	●			
	客観性																					
高2女	表現したいもの	○	○	○	○	○	●		○								○					強烈な夏の太陽
	方法を伴った表現したいもの		○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	○			●			○	
	表現方法						●		○		○	●	●	●	●	●		●	●	●	○	
	構成			○				○			○	○	○			○				○	○	
	客観性							○						●		○					○	
高1ダンスクラブ	表現したいもの	○	○	○		○		○				○						○	○			光線
	方法を伴った表現したいもの	○	○				●													○	○	
	表現方法					○		●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	●	●	●	●	
	構成		○	○		●		○	●	●	●											
	客観性					○				●				●							○	
高2・3ダンスクラブ	表現したいもの	○	○																	○		光線
	方法を伴った表現したいもの	○	○	○				○				●	○			●	○	○	●	○		
	表現方法	●	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	○		
	構成	○	○	○	○		●															
	客観性					○	●					○	○	○	○	○						

グループ	時間 ことば	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	表現内容
大学女A	表現したいもの	○	○	○	○			○		○							光をあびて
	方法を伴った表現したいもの	○	○	○	○	○	●	○	●	●	●		●	●	●	○	
	表現方法					○	○			●	●	●	●	●	●		
	構成			○	○	●	●	○	●	●					○	○	
	客観性		○													○	
大学女B	表現したいもの	○	○	○	○	○	○	○							○		暗からのがれ出る
	方法を伴った表現したいもの				○			○	○	●	●	●			●	○	
	表現方法									●	●	●	●	●			
	構成				○		●	●	○	●	○		●	●	○	○	
	客観性					○									○		

2. 表現の過程を概観すると、

(1)小学4年は与えられた課題はすぐに内容が決定し、方法を相談し、一回実際にやってみてすぐ「できました」と報告してきた。方法を工夫してその客観性について検討すること、新しいことをしてやろうということは考えられていない。ここでは主題の決定、主題を動きにおきかえる、踊ってみる、の3つの過程を見出した。

(2)小学6年は、男子はたき火を消す雪男、女子は木と太陽を表現した。主題が決定すると役割分担が行なわれ、お互いに連絡をとりながら動きで表現した。一通りでき上ると時間が残っていることを知って練習をした。ここでは、主題の決定、役割分担、動きで表現、練習の経過があった。

(3)中学2年は「光」という課題は直感的に光ること、光るものとし受けとられている。主題を決定し、まとまりのあるものとして表現しようという構えではなく、いろいろな光を動きにおきかえて一つ一つ積み重ねていくことが主題であり、目標となっている。表現内容をきめる、動きで表現する、工夫する、が表現内容の一つ一つに繰返えされて最後に終止の形が付け加えられた。全体の枠組みということがなく、部分を積み重ねて表現された。

(4)高校1年は、始め表現したい光についての材料が多く提出されて、その中から選択され発展させた形で心の明暗という主題が決定された。決定されてから動きをつくる場面に移行するのは早い。動き出してから新しい表現内容が出てきたり、また、動きながら表現方法が確かめられたりしていた。この現象は経験のあまり多くないものの過程の一つと考える。主題を決定する、動いてみて表現しているかどうか確かめる、動きながら新しいアイデアを思いつく。などの経過がみられた。

(5)高校2年は、始めに表現したい材料が非常に多く提出されるが、強烈な夏の太陽という主題が比較的早く決定された。しかし次の動きをつくる場面になって、ことばで動きの説明をしているのが多く見られるときは話し合いの内容が進展しなかったが、お互いのイメージが明確になるに従ってそれはポーズとか動きで説明されるようになって、まとめられた。動きにおきかえるにも二つの段階があるといえる。

(6)高校1年ダンスクラブは、光線そのものを表現したいという目標があったとみえたが、主題は決定的なものにならず、このグループは表現することが出来なかった。原因としては、グループ構成、要求水準と表現技術のずれが考えられるが明らかではない。

(7)高校2年3年ダンスクラブは、表現したいものは光線ということが早く決定され、その主題にふさわしい動きの方法の提案が行なわれていた。材料の提出が終るとすぐに構成にはいり動きの方法に関する話し合いが主としてかわされ表現されていった。先の材料が提出されるときに内容の舞踊的イメージがすでにあって話し合われた。従って表現したいものを動きにおきかえるなどの経過はここにはない。主題の決定のときにすでに方法の検討が始っていた。主題の決定に表現技術・表現効果も条件となっている。

3. 話し合いは何を手がかりとして始められるであろうか。ダンス表現という枠の中での表現したいものは、当然身体の動きを素材とすることを基底としての創造的想像の所産であるから、「表現したいもの」は話し合うとき表現方法もイメージが描かれているに違いない。しかし、ことばの中で、「表現したいもの」のみの場合と「表現したいものは表現方法が伴っている」場合とでは後者の方がより舞踊としての具体性に近づいてイメージが描かれているといえると思う。(第三表)は、ことば(行動を伴う)を1分毎に5つの項目によって整理したものである。(資料の整理の項参照)話し合いはまず「表現した

いもの」の内容についてお互いにくわしく説明し合いお互のイメージが共通になって主題が決定される。この話し合いには「表現したいもの」として漠然としたものが提案されるグループと、表現したいものは表現方法を伴って提案されるグループがあった。第三表内縦線は話し合い場面が動きをつくる場面に移行した時期を示しているが、話し合いの始めから表現方法を伴った表現したいものや、表現方法について話し合われたグループは早い時期に表現の構成に入る。「表現したいもの」を手がかりに話し合いはじめたグループは比較的遅い。このことは、課題をすぐ身体表現できるものと、できないものとの創造的想像の違いを意味しているものと考ええる。また、経験のあるものと、ないものとの違いでもあろう。経験者は表現したいものはその方法と重なったイメージを描いていると思う。表現したいという興奮は動き、あるいはリズムとして直感されているのではなからうか。ロー (Anne, Reo)⁸⁾ の研究した視覚イメージ、聴覚イメージ、言語イメージのように動きの場合もあるのではなからうか。これらのことが経験者にとっていつどのようにして感じるようになったかを明らかにすることは、未経験者に表現したいものを具体化する過程の解明にもつながる点だと思う。

4. 話し合いの場面が動きをつくることが中心になる場面に移行する時期について

光の表現は、まず表現内容または動きを伴った表現内容の話し合いからはじめられたが、この話し合いの場面が動きをつくることが中心になり表現しはじめるのはどのようなときであろうか。第三表の縦の太線は場面が移行した時を示すものであるが、この表全体について共通していえることは、表現したいものに動きが伴ない、表現内容が全体的(○)に漠然とした形で話し合われていたものが、ある程度全体の見透しができて表現内容の部分(●)についての話し合いが始まり、お互のイメージが共通に明確さを増したときに場面は移行する。場面の移行は、表現したいもののイメージと表現手段のイメージとが一致したときといえると思う。これは全体としてもいえるが、部分部分にもこの形は繰返えされていると思われる。

5. 経験の多いものの過程と経験の少ないものの過程の比較

過程の違いを話し合いの内容から区分すると、経験の少ないグループは、1) 表現したいものをきめる、2) 表現したいものを表現方法と結びつける、3) 実際に動いて表現を確かめ、新しい表現を工夫する、4) 全体構成をする、5) 練習して技術の案定をはかる、である。年齢が幼い場合は全体の見透しが弱いので構成などがあらわれないこともある。ダンスの表現能力の違いによっては各段階はもっと分節するであろう。経験のあるグループは、1) 動きを伴った表現したいものが提案され、主題が決定する、2) 全体構成をする、3) 表現方法が工夫される、4) 練習して技術の安定をはかり表現の客観性について検討する。以上の段階が区分できる。

この段階は集団でしかも創造する人と表現する人が同じであるという条件のものであるので、ダンスを創る人と表現する人が分離している場合とは多少過程に違いが出るであろう。踊る相手の能力が素材なので、自分では不可能のことでも創作できるからである。また、時間を制限して創作させているので、長い時間を与えた場合については今後の課題としたい。

VI 要 約

ダンス創作に必要な能力や、どのような手続きでダンスを創作していくかを明らかにし、

児童・生徒に舞踊の創作をさせることが、創造性の育成にどのような位置と役割をもつものであるかを知る手がかりを得るために、小・中・高・大学生にそれぞれ3人グループをつくらせ、「光」という題を与えてグループによる舞踊の創作過程を観察して次のような結果を得た。

1. 舞踊の集団による創作過程は四つの段階に区分することができる。

1) 話し合いによって表現したいものをきめる。

グループの活動として、全員が共通な目標をもって行動するための必要な段階で、材料の提案の段階である。経験者にとっては枠組の段階でもある。

2) 話し合いによって表現したいものと表現方法とを結びつける。

お互いの提案を選択したり、組み合わせたりすることによって表現したいものを動きにおきかえていく。また、お互いに表現を確かめ合う。部分の提案をする段階である。

3) 話し合いによって表現方法が工夫され、全体構成をする。

動きに関する提案をまとめて構造化する段階である。

4) 全体を通して練習しまとめる。

課題に対する結果を確かめて、表現方法の安定をはかる。

以上の4段階は科学技術的な創造と共通するところが多い。しかし舞踊表現の技術的な面からの検討ができなかったのも、なお、この問題については研究していきたい。

2. 四つの段階は先行経験の違いや年齢の違いによって省略されることがあり、各段階は更に分節されることがある。

3. 経験者集団では表現内容を決める話し合いの段階で、既に表現したいものは動きのイメージを伴って話し合われ、舞踊として具体性のある提案が行なわれる。そして表現に採用された提案数は少く、表現方法および構成に関心がある傾向を示した。

未経験者や年齢の低いものの集団では、表現内容を決める話し合いの段階では、表現したいものは動きのイメージを伴っておらず、舞踊としての具体性をもった提案が行なわれていないので、「題」の決定後に、表現したいものを表現方法と結びつける手続きを必要としている。小学4年生以外は、表現内容として採用された提案数が多く、表現方法を工夫する段階になっても、表現内容が提案される、即ち動きのイメージを描くことを契機として、表現内容の修正や新しい提案が行なわれる傾向があり、舞踊としての具体性のない表現内容に関心が強いことを示していた。

経験者集団と未経験集団の相違点は、表現したいものが舞踊としてのイメージを描いているかどうか起因していることが多いと考えられる。

以上の研究によってダンス創作過程および経験差による相違点についての概要を得ることができた。なお、表現内容、表現方法および、動きのイメージを描くまでの過程の分析と共に、集団構造の変化による創作過程への影響および、集団による創造的思考の問題については今後の課題として研究をすすめていきたい。

参 考 文 献

- 1) マズロー（上田吉一訳）：「完全なる人間」，誠信書房，1964，P.184～198.
- 2) 日本体育学会編：体育学研究，Vol. 10，No. 1，P.320～321.
- 3) 恩田彰・野村健二：「創造性の基礎理論」，明治図書，P.168.
- 4) 穂山貞登：「創造性の開発と評価」，明治図書，P.38～52.

- 5) 松本千代栄 : 体育学研究, Vol. 9, No. 2, P. 1.
- 6) W. J. J. ゴードン : 「シネクライス」ラティス, 大鹿護・金野正訳。
- 7) 日本体育学会編 : 体育学研究, Vol. 9, No. 1, : Vol. 10, No. 1.
- 8) ロー (ROE. Ance) : *A Study of imagery in research scientists* J. PERSON 1951.

On the Study of the Dancing at Schools

— On the Creative Process of Dances —

Yôko ANASAKO

(Department of Physical Education)

For the purpose of finding a clue to discovering the position and role occupied by the creation of dances in developing the creative talent of boys and girls, the following study was carried out :

For groups, each consisting of three members of primary school pupils, junior high school ones, senior high school ones or college students respectively, was given the theme of "Light" on which they were to create a dance. By observing their respective behaviors in the course of creation, the creative process of the dance was analyzed, and the following results were obtained :

1. The creative process of the dance by a group may be divided into 4 stages :
 - (1) What is specifically to be represented is determined by mutual talk.
 - (2) What is to be represented and the formula of expression are combined on mutual talk.
 - (3) The formula of expression is contrived and the composition of the dance is made.
 - (4) The whole dance is rehearsed and then coordinated.
2. Some of these stages may at times be skipped depending on the difference in their antecedent experiences and their ages, or these stages may be further sub-divided.
3. Referring to the mutual talk mentioned in stage (1), those who have past experiences seem to talk with a clearer image of the dance in their mind, whereas, those without any past experience are inclined to talk without any concrete or substantial conception of the dance, with the result that much time tends to be taken before a definite target is set up.